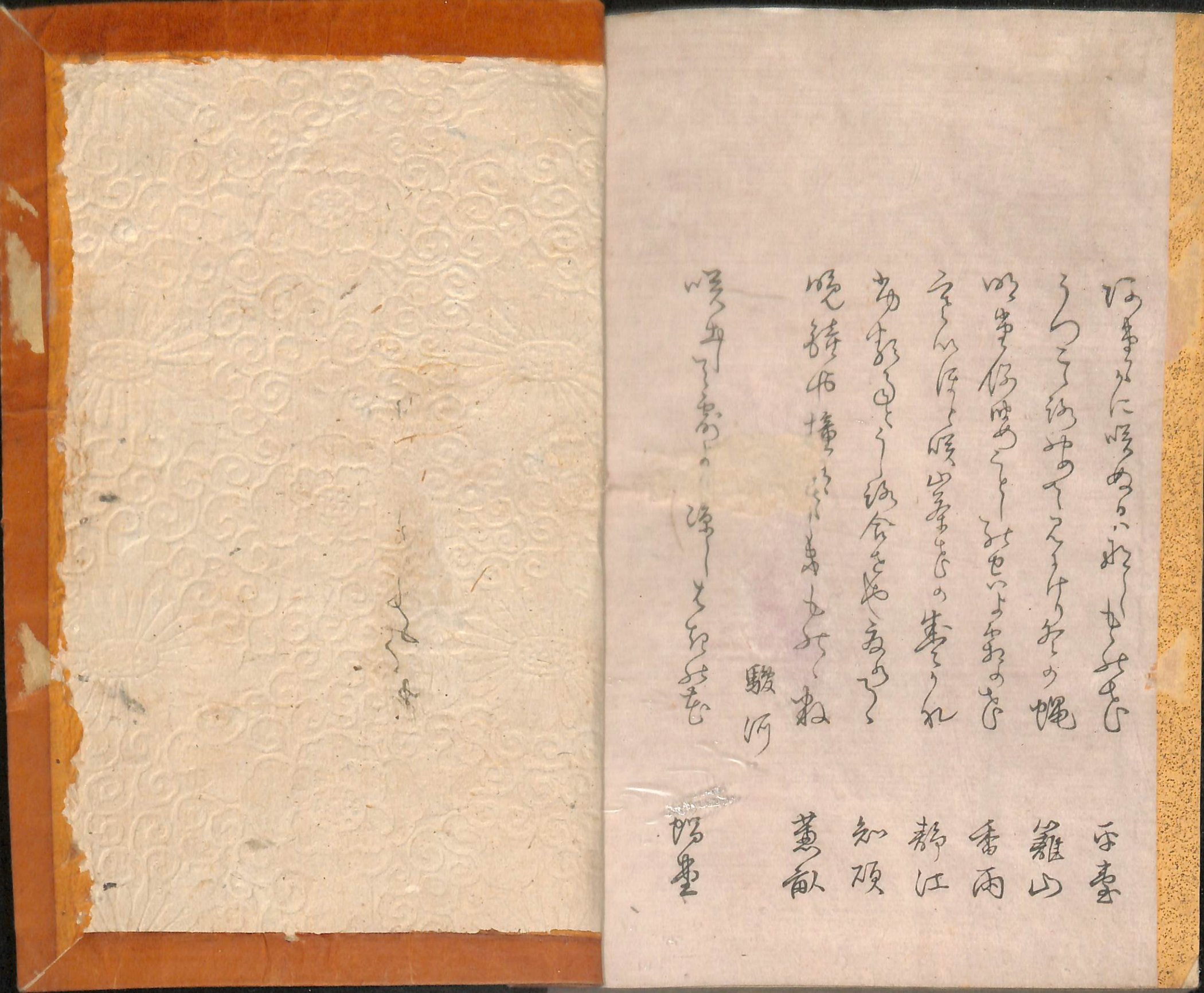
不京集

911.3
7

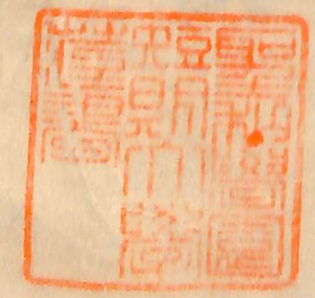


平泉
雞山
香雨
都江
知項
蕙畝

駿河

墨

咳唾



咸珠

明治二十年
十一月廿一日
[illegible]

貴長書山先人

百尾江之爲西尾の御祖と切れハ教
子数名ありと以て毎世のはつ事なる
ひとり或ハ業の為なるため又家を
ゆるさるもあり他の所指の人ゝ事
命の子伊予江之子ゝ人家の業を陸江
又陸奥之爲故爲之業を学輝ゝ人

き住当村なる竹年居士の十七回の忌辰に
あたれハ百番の句を聯き遠近風士
の句を乞集を作りて霊魂を慰めまいらす
るも生前の志たるを以て此集の序
者とはなりぬ　於五昇庵之主雄記

明治十年五月日

脇起　江三居士

けりしや取ぬ花に出る家蝶山

飛ふ声や蝶も夜の遊さけ　江二

春雨はけふねの下も解ける　杉等

出かけし花も春雨よりあまし　龍女

すゞしいかに陰々と霞む月光照　河玉

陽ませる時も河の風の梅　仙民

大根も中ぬき頃に伸びけり　以之

庭裡の浅漬に独る夜の寒　晴心

足合せる手数もいとぬ念の星　眠海

一夜の夜嵐孫の手のあまえ　桂良

米升蔵まいらせり時雨哉　指月

鏡餅を搗ぬときる夕月　通仙

我信も衣紙と出る宿縫ひ　穂叟

咲く事もなけれさる寒き鳥　一知

新子が集し世の流れ逝　東湖

子ける囃くて葉子の打ちすわり　竹亭

降深い積りもめでたき花の里　氷渓

鮎汲やひらぬ石にたゝれは　五風

鴛河の波入る仮にゆくのく　可花

名あるの独りの蒔きの泥比ち　葉蝶

宮あり比庭園に間の見隠し　一叟

夜ふかし叶ふぬ手酒ぬ　東里

驕りなくかりの俤さら草　青芽

埔手まろの手をかりなく　五三

ことば流人さそれぬ姫の涙ぐみ　三揖

かけたつり俤しめさめ雷　鄰露

十露無ふ金女仕まふも指出　紅月

家このまむこうへ扇も暁　南之

秋雲のこの殿ぞ月の流の音　花雪

花かしと咲く垣の葉　畊月

出代り傍苔代の女ともちる雲　みな源

ひ錦しゐら傍生まれた生　杉央

方角もちまた知れぬ船路　一ツ

如涼しもみ雲く鏡月女かな　世君

雨露雷てその中丸とまり　甫山

土きえく鏡て赤き独活の芽　義風

[illegible]の[illegible]をいとぬみて[illegible]の
[illegible]を[illegible]に[illegible]送る

懐[illegible]大河原　[illegible]　五
[illegible]　二
麻[illegible]　五
[illegible]　二
[illegible]　五
[illegible]　二

[illegible]　五
[illegible]　二
[illegible]　五
[illegible]　二
[illegible]　五
[illegible]　二

川越し板橋を繋ぎ
[illegible]
[illegible]
筏体の中[illegible]の数を
[illegible]
[illegible]の[illegible]
土佐山の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]の板
[illegible]
[illegible]

五
二
五
二
全
五
二
五

楠の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

二
五
二
五
二
五
二
五

[illegible]　二
[illegible]　五
[illegible]　二
[illegible]　五
[illegible]　二
[illegible]　五

西京

[illegible]　芥舎
[illegible]　稲荷
[illegible]　柳坂
[illegible]　祇城
[illegible]　梨本

大阪

[illegible]

月こそも可なし涼し秋の風　鶯笠

傾よき見ても蓮浮の通し鴨　南嶺

家をいて蝶見ても待ちて冊るらん　安人

ありさきも牡丹蘭見て蝶もあり　流美

そよそよと吹きそへるにも柳　不角

大数書きいれ燈心きし小寺哉　月人

深きに寒来れ鮮き鐘も青き　如系

う咲くのやまとの秋も夜もすがら　渓逸

蜘のいかにも流れ名木立　旦雨

蜻蛉の止まる瞬め草の風　泉志

伊勢

かすみの起しかけて行る桜かな　藏中

うつりの秋を待て鳴や初鶴　素洞

尾張

濡れて鎧柄あるし春の風　何見

古池や何をいふらんかの草　雅石

寄湯もの集る時も和らぬ　静峯
竹棲その身けるを椋の友　荷庵
川魚の飛ぶ水お秋の風　寄湯
一と雫九中之はれ秘るち　杜若
秋出湯の花や寺はる　桂渊

三河

稲笑き蜂の醉ふれ野に小雨　蓮亭
枇も竹時雨木けるれ水　静意

猿の声年や八千重年　麦哉
了夜み八重れ遅れ　貞之

遠江

雲はる方へ指合せけれ　洗玉
木の葉の秋立の光　十湖
大河の千代にも　霧村
霰や白露や萩の露　木渓

[illegible]　平泉
[illegible]　羅山
[illegible]　香雨
[illegible]　都江
[illegible]　知項
[illegible]　蕙畝
[illegible]　駿河
[illegible]　[illegible]墨

[illegible]　蓮糸
[illegible]　成世
[illegible]　昭如
[illegible]　反香
[illegible]　五常
[illegible]　九成
[illegible]　伊豆
[illegible]　連水

象鶴のめくらし空や鶴なきかな　甲斐

人何と何き月秋のさひしかれ

秋ことえて稲妻路をささひけり

きらり時も庭白りして秋の里

家引の露の明けかし秋のくさ

芦やをちる嶋にかれき蓑

夜さみ不秋のさけれ花

為水

竹良

忠輝

帰似

半拙

草圃

左楽

お楼

水仙の伊はなる露の節

の梅も花にて寄さ春浅に

翁か何処降も楼かゝ残る

降るきや了雨あらう河の神

舩に乗たる浪のめぐる夜　杢兆

年々の春秋の花染みれ

松頂

宋茶

雪葉

芳雄

秀歳

芳女

吉助
宗味
面山
知恭

上弦

一流
仁里
蘇詹

蘭我
素篠
空点
鈴寸

安房

梅壽
一陽
詠来

[illegible]

旭青
鶴翁
洗玉
飛雪
英鶴
子青
[illegible]

上元

[illegible]

梁豊
九郎
光同
文河
三年
青我
兼唯

蝉なきて離れかぬる枝の蝉　下毛　栗古

声かゝる鷺の園ふりや秋の風　茂精

しみつくに覚る虫の細音かな　野仙

松かえに寝て寝覚ちかき夜かな　茶逸

新月や秋の露ちる夕時雨　業之

大和

名月を見る夢の名残の涼かな　氷石

蝉啼くれぬ森の露ありぬ川の浦　徐也　更涛

うつろはむやうんぬを残る浦　雪朴

朝皃や道の程ちかの草の露　洪洲

越中

春霞馬の轡に柳哉　露故

ふるふとも手で拾ふ首や花の雪　露山

蝉なきて人の住みかや寺の庭　三桃

眉丈
忘文
桃郷

出雲
曲川
倚苔

松雪
鶴彩

倚坂
桐法
机彩

豊坂
鶴水
霊心
甘一
乙人

阿波

きみにと何とせんたつ雨往　史白

夏の粗傍菜わき咲き採きえ　十竹

ふきちるも小麦掛てて桐原　逸和

春風の泥女花水にうてる　挹清

讃岐

御よ泉遷か國の居並ぬり　岩海

子州ぬ寺嘉きれし氷塞　石水

[illegible]　蝶夢

裡にある井さき遠き木から　宣雅

安藝

雪の人ゆふかた森さつゆき急　由風

ゆふ世いのなきちさ森さ明えさ　素蓮

伊豫

まちろふに咲とけんわちらる　篤庄

先るのつん出もかこふえぬゑし　士乙

[illegible]　　梅石

[illegible]　　田鶴

[illegible]　　江美

[illegible]　　伯耆

[illegible]　　錦童

[illegible]　　穆山

[illegible]　　都春

[illegible]

[illegible]　　竹彩

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　伯耆

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　左

[illegible]　　紙孫

[illegible]　　[illegible]

[illegible]　　一枝

月並
清生
[illegible]

木甫
時雨
[illegible]

越後

[illegible]

[illegible]
加屋
桂洞
柳里
柳泉
[illegible]
大芭
[illegible]

[illegible]　　元永
[illegible]　　元石
[illegible]　　翠風
[illegible]　　夢丸
[illegible]　　花儀
[illegible]

加賀

[illegible]　　文器
[illegible]　　桃芽

[illegible]　　同性
[illegible]　　[illegible]

羽後

[illegible]　　赤山
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　紅海
[illegible]　　[illegible]

[illegible] 鶴年

[illegible] 鴻文

[illegible] 峰風

[illegible] 陸奥

[illegible] 綾和

[illegible] 陸中

[illegible] 芳洲

[illegible] 小[illegible]

[illegible] 雄斗

[illegible] 也面

[illegible] 斗洲

[illegible] 石野 [illegible]水

[illegible] 西史

[illegible] 十[illegible] 小民

[illegible] 清川

[illegible] 素交

終きかまた丸みを不二之雪のみね　海岳　名井
けふりや井手おほろ哢かね　友游
躍り出や稲穂掛しあふれ　嘉丈

岩代

梅咲け若の此かけ梅の花　杜山
迎次の為うれ人之誘り秋の雨　松兼
ちよ我待たせる扇あれ　柒月
稲まえや此数様る風あれき　菓露

福島

開しきおもしろ人嫁しき月晴　鉄塚
わけの好き哢の木あまね時鳥　馬嵩
若子操て来る人深て通り花　八来
雉子の筋をわける蛇の杜宇　太甫
菊無き舟之火入の底の風薫　佳雪
堀まりの此山寺瀬之まる萬　太珠
萩の花まで見事かな　波紗

従五位上の十七回忌を修しけるに追福して

都へも通ふ名残の来世かな　愚山

温泉の山の萬歳もきらりけり　自眉

宮さくらふ帆を掛けさもや露　素耕

みよしたまへ霞がくれ秋の山　小湖

打萬く燃立る落葉の山　之止

うかれてのちさへ残る人のゆききかな　秀人 浄心

出る月の遅れも出よ花之初桜　素蛻

日みちを淡杉のむら霧かな　菜里

けさみれば蝶々舞ふ紅かな　文石

夜の雨はなまちれて見えぬの音　梅雅

尋ね行手の人の袖をまし　鳥孫

小嶋まきて杜若に光かな　青嵜

浜千鳥も見えて神田植　山石

うかれても見えさ落葉も見えさ皆ひれ　随圃

船人の夕汐をまちわぶ空桂　休人

[illegible]

[illegible]

[illegible]

富祖
一知
藤堂
長和
東洲
竹重
一明
五三

指月
暉海
明月
仙民
河玉
甫山
象洲

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二
五
支
二
五
支
二
五

支
二
五
支
二
五

江戸

仙民

二民

二民

二民

二民

二民

二民

[illegible]

四 二 民 四 二 民 四 二

遠のくよりはかなき勇まし
わかの浦の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

民 四 二 民 四 四 二 民 四

二　氏
四　二
二　氏
四

東京

詞花集
源氏
等載
梅手
琴平
蕉雨
尋香

[illegible]

桂花
香渡
指歩
水竹
接友
桜山
杉鳴
水渡

永機
桃窓
寛堂
夢浦
見窓
梅園
岸風
花彩

[illegible]

滅雅
湖亭
長大
詩竹
竹食
文穂
美子
古釜

植[illegible]

[illegible]人[illegible]

蕾[illegible]菜の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

子爾
金屋
清雅
尚書
和家
史料
[illegible]
[illegible]

[illegible]

宇山

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

聖和學園
大短
第 6359 號
受入
昭36. 3. 14

文部省
東京薬研坂町四十三番地
時本孝夫
仙台市国分町五十二番地
伊藤江二

山田三郎氏新著を新年の
春を祝福する意味の詩の
題を与へられたる時の
思ひ浮べたる山々を
書く
事にて詩歌の
如くに
成りたる
詩を
拙者
題する
所
下京の友
古稀庵
高木孝夫

1